

## 第5分科会「里山と田んぼと水鳥」第3回

千葉県の上山をどのように再生すべきか

日時：平成22年4月24日(土) 10:00~16:30

会場：下総神崎駅前集合(駅前ロータリー) ご連絡先は 荒尾稔 090-9313-2054

参加定員：10名まで

「千葉の上山をどのように再生すべきか」をテーマに「日本不耕起栽培普及会」会長であり、「吉川英治文化賞」受賞者でもある香取市在住する岩澤信夫さんにお話を伺います。

一生をかけて追及してきた「冬期湛水不耕起栽培」手法の開発プロセス、そして全国的な規模での調査研究手法、そこで浮かび上がった課題をただちにフィードバックして会員に試験評価をお願いするその具体的な農業の再構築手法にこそ、里山再生へのヒントがあると個人的には確信しています。原則として無肥料無農薬で作りに出せる技術を確立され米づくりだけに構えず、そのコメの販売手法を独自に構築し、日本で最も効果的な販売手法で高品質高価格米の販売もされています。



千葉の上利根川下流域で、とてもうまいお米を作りだせる地身の上肥えた田んぼを作りだされています。また、現在「冬期湛水不耕起栽培」を勉強するための「こうざき自然塾」を運営し、毎年多数の方々が全国から勉強に通っていられます。



それらを里山シンポジウム実行委員会の皆さま方に紹介したいと前々から、岩澤様に相談してきました。

今回は、岩澤さんの農業技術の再構築、そして日本の根源的な「ものづくり」までをも組み立て直そうとされています。

今回、冬期湛水不耕起栽培の栽培現場での見学を交え、午前午後を含めて4時間以上をかけてしっかりとご話をいただけることとなりました。

午後の荒尾 稔の講演は、利根川下流域への大型水鳥復活のため、国交省からのトキ、コウノトリ復活を目指す「南関東エコロジカルネットワーク」構想解説を含めて、最近のラムサール条約湿地登録への動向を報告します。

そして、千葉県下で近年、「野生種コハクチョウ」が定着を始めた個所を中心に、千葉県下での4か所を将来への候補予定地を報告させていただきます。これから16年後までを目標とした「ラムサール条約登録湿地」を目指して田んぼ主体の農業の再生とセットしての具体的な提案として、荒尾からの試案とします。

今回見学をさせていただき、「香取市堀之内 藤崎水田」地域もその候補地の一つでもあります。

里山を含む地域再生を果たして行くための、目標設定として「世界を旅する野生種コハクチョウ」が地域を子孫を残せるか査定させ、その選ばれた箇所を、将来の候補地に育てていくというユニークな発想でもあります。

### 分科会スケジュール

- 10:10-11:00 冬期湛水不耕起栽培の現地を見学します。
- 11:00-12:00 究極の田んぼ、「耕さず肥料も農薬も使わない農業」午前のお話 岩澤信夫さん
- 12:00-13:00 昼食休憩
- 13:00-15:00 究極の田んぼ、「耕さず肥料も農薬も使わない農業」午後のお話 岩澤信夫さん
- 15:10-16:00 「里山と田んぼと水鳥」と地域再生、ラムサール条約登録湿地への可能性 荒尾 稔
- 16:00-16:40 質疑応答

参加費用資料代金500円、また昼のお弁当を手配します(別途500円)。

日本経済新聞出版社刊「究極の田んぼ」-耕さず肥料も農薬も使わない農業-価格¥1,575円 2010/4/3に発刊最新書です。

「里山と田んぼと水鳥」分科会は2006年に1回目、2008年に2回目を開催しております。

本年秋田んぼの生態系保全を目的とし第26分科会「里山とミツバチ等の諸問題(仮題)」を開催する予定です。